

輸送路における放射線量率の測定地点

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



輸送路における放射線量率の測定結果

	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの [台] ^{※1}	(参考) 当該地点の空間線量率 [μ Sv/h]	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [μ Sv/h] ^{※2}	線量率の増加が観測された時間 (累積) [分] ^{※2}	追加被ばく線量 (累積) [μ Sv]
①南相馬IC	25,545	1,163	0.11	0.04	156	0.05
②浪江IC ^{※3}	15,720	142	0.23	0.04	49	0.02
③大熊IC	39,031	667	0.29	0.11	122	0.02
④常磐双葉IC	14,171	57	0.84	0.03	9.3	0.003

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 測定は20秒単位。

※3 ICにおける降車と乗車の輸送車両を対象としている。

輸送路における放射線量率の測定結果(2022年4月～2023年3月)

<評価>

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。